

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0511
施設名	松葉保育園
施設所在地	稲城市矢野口2065
法人名	社会福祉法人東保育会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

小麦粉粘土

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

感触遊びや制作、砂場遊びを楽しむ姿があった。小麦粉粘土を用意するといつもはなかなか遊び込まない子も集中して取り組む様子が見られたので、柔らかさの違いや形を変えること、様々な遊びが出来るのではと考えたため。

2. 活動スケジュール

9月頃から小麦粉粘土の活動を定期的に取り入れていった。柔らかさを変えたり、色を着けたりした小麦粉粘土をちぎったり、丸めたりして形が変わることを楽しんでいた。10月には色々な物に見立てたり、「ままみたい」といいながらおままごとで発展。11月には拾った木の実と合わせた制作をおこない、子ども達のイメージは広がっていった。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

小麦粉や指絵具、制作用のシートや型抜きや粘土用のおもちゃなど。木の実や木の実を拾うためのケースなど。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ゆびで触る、握る、ちぎる姿が見られる。握りながら、何かに見えると、見立て遊びを楽しむ。大きい、小さいが分かる子もいる。友達の言葉を真似して繰り返す。保育士が細長くしたり、丸めたり、ドーナツ型を作ってみる。細長い粘土をちぎって山にする。ドーナツ型を指にはめる、のぞいてみる。小さくちぎって並べる。木の実を飾るなどした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「おっきいよ、ちいさいよ」「かめみたい」「ぴょーんってのびるよ」「こねこねするよ」「まあいいね、おさらちょうだい」など見立てて遊んでいた。保育士は適宜声を掛けたり、必要な環境を整えたりしながら、子ども達の自由なイメージを記録したり、共有したりしながら関わっていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

興味の移り変わりが激しく、なかなか落ち着いて遊べない子も、手先の感触を楽しみながら長い時間遊び込んでいた。子ども達のイメージは小麦粉粘土の形の変化によって大きく広がり、ままごとや自然遊びとも重なっていった。同じテーマを深めていく活動は、単発的ではない遊びの継続性を1歳児にももたらすと知ることが出来た。